

## PDS・MDSとは

地中引き込みの事業場では、受電点にある高圧キャビネット内に電気設備と電力会社の配電線を切り離すためのPDS(一般型断路器)・MDS(モールド型断路器)を使用しています。この断路器を開放し、お客さまの設備のみ全停電することで電気設備の点検、高圧工事などを行うことができます。

これらはお客さまの設備で事故が起きても自動的に電気を遮断できません。主遮断装置より引き込み側(LBS・VCB・高圧引き込みケーブルなど)で事故が起きた際には波及事故につながります。また、本体の経年劣化により事故につながることがあります。波及事故を防止するためには事故時に自動で遮断するUGS・UAS(地中線用過電流ロック形高圧交流負荷開閉器)への交換が有効です。

当社ではPDS・MDSの定期的な設備更新とともに、UGS・UASへの交換を推奨しています。

更新推奨年

20年



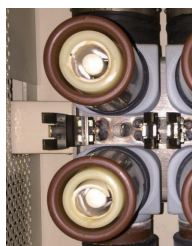
PDS・MDSは更新推奨年が20年です

手動で操作するタイプの断路器なので、事故を自動的に遮断する機能はありません

## 波及事故とは

高圧受変電設備などで起きた事故が原因で電力会社の配電線を停止させ、同系列の配電線から受電しているビル、工場など第三者の電気設備を停電させる事故です。

波及事故の主な発生原因としては経年劣化などの保守不完全、雷害などによる自然災害、工事・火災などによる故意・過失、小動物の侵入接触が大半を占めています。主遮断装置より引き込み側(LBS・VCB・高圧引き込みケーブルなど)で事故が起きた際、PDS・MDSは波及事故を防げません。波及事故を防止するためには高圧キャビネット内にUGS・UASを設置することが有効です。



破損したMDS



事故後、UGSに交換

UGSが取り付けられた  
高圧キャビネット

UGS・UASが設置されていない場合に

## 波及事故の原因になる設備とは

UGS・UASが設置されていない場合には主遮断装置より引き込み側(LBS・VCB・高圧引き込みケーブルなど)の保護はされていません。これらの機器が経年劣化などで事故を起こすと、電力側の変電所を停止して近隣の住宅、ビル、工場などを停電させる波及事故につながります。

